

Japanese In NY (ニューヨーク生活)



New York County Courthouse

《 Law & Order 》

今回はニューヨークを舞台にしたアメリカのTVドラマの話。近年アメリカに限らず、ヨーロッパ等で制作された様々な人気TVドラマが話題となり、映画を上回るほどのストーリー性や個性的な登場人物の魅力に嵌っている人が数多くいるようだが、ニューヨークで暮らしていた当時に話題となっていたドラマのひとつが『Law & Order』。

1990年から2010年まで20年間に渡って、20シーズン(6シリーズ)全456話放送された刑事・法廷ドラマで、20シーズン放送はアメリカの最長記録に並び、エミー賞では11年連続作品賞にノミネート(これも最長連続ノミネート記録)され、1995年に作品賞を受賞した名ドラマだった。

ニューヨークで暮らしていた頃はちょうどシーズン4~8が放送されていたのだが、実は何を隠そう、当時『Law & Order』を一度もちゃんと観たことはなかった…。というのも、現地のテレビでは当然英語での放送で、特に刑事・法廷ドラマだったため、内容も難しそうで英語のセリフもほとんど理解出来そうになかったため、観る気もなかった。ちゃんと観出したのはごく最近で、なるほどと思うほど面白く見事に嵌ってしまったが、やはり今でも英語でなく、日本語で観ている。但し、日本語だと俳優の個性が日本人声優の声のイメージでキャラクター付けされてしまうので、たまにオリジナルの英語版をチラ観すると声のイメージが全く異なり、妙なギャップを感じることもあるが、それは致し方ない。

この『Law & Order』を観ることで、ニューヨークがより懐かしくなり、TVドラマに嵌ってしまう感覚が良く分かった。毎回異なる事件が起こり、捜査~解決~裁判~判決という流れも面白く、サム・ウォーターストン演じる検察官のジャック・マッコイ(声は牛山茂)とフレッド・トンプソン演じる地方検事のアーサー・ブランチとのやり取りも面白い。後にジャック・マッコイの後任検察官として現れるライナス・ローチ演じるマイケル・カッターもいい味を出しているが、個人的にはアラナ・デ・ラ・ガーザ演じる女性地方検事補のコニー・ルビローサがいい。また、ジェシー・L・マーティン演じるエド・グリーン刑事やジェレミー・シスト演じるサイラス・ルーポ刑事の存在感も強い。

お薦めのエピソードはたくさんあるが、ロシア人親子に纏わる物語で、ラストのジャック・マッコイの笑顔が印象的なシーズン17の『異国の毒』。ルーポ刑事が初登場するシーズン18の『残像』。グリーン刑事がフィーチャーされたシーズン18の『守りたかったもの』等がお薦め。毎回ニューヨークの街並みも体感できるので、機会があればぜひ観て欲しい。

この『Law & Order』からは数々のスピンオフ作品も生まれており、『Law & Order: クリミナル・インテント』『Law & Order: 陪審評決』『Law & Order: LA』『Law & Order: 性犯罪特捜班』があり、『Law & Order: 切り裂かれた死体』というタイトルで映画化もされ、先頃、『Law & Order: You the Jury』という番組の製作が発表され、近い将来放送が始まるようだが、やはりこのニューヨークを舞台にしたオリジナルの『Law & Order』がいい。ちなみに、本誌編集長は今、ハワイが舞台の刑事ドラマ『Hawaii Five-0』(下記参照)に嵌っている。